

競争カランク: 日本、中国に抜かれ24位に後退

スイスの国際ビジネス教育・研究機関IMDは9日、世界主要55カ国・地域を対象にした07年版「競争カランク」を発表した。前年16位の日本は24位に後退。18位だった中国は15位に上昇、日本は89年のカランク開始以来初めて中国に抜かれた。米国が首位を維持し、2位はシンガポール、3位は香港だった。

日本はインフレ率や外貨準備高、平均寿命といった項目がトップクラスだった半面、直接投資の受け入れ額や企業税制、財政赤字、外国語能力などが最低水準に低迷。総合順位で中国のほかドイツ、英国、イスラエルなどにも抜かれた。

IMDは国内総生産(GDP)やインフレ率、携帯電話の料金体系など323の指標を使い、経済活動、行政効率、企業効率、インフラ整備の4分野で各国・地域の競争力を分析した。(共同)

毎日新聞 2007年5月10日 0時33分

Copyright 2005-2006 THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.

MSN毎日インタラクティブに掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

(C) 2006 Microsoft